

言語の構造から学ぶ英語学習

英語の読み書き基礎講座

SLE 塾 (School of Logical Expression)

—モジュール式読解から表現へ—

このレポートは、当研究所 (IPMA) の篠原泰正氏のレポート、ブログ、そして書籍を基に整理したものである。言語の構造から学ぶ英語学習は、”なぜ英語を苦手とするのか、その理由は何処にあるのか、どうすれば、その苦手を克服できるのか”といった疑問に対処できる、理に叶った学習法の一つである。

一方では、我々日本人は世界へ「物・事・考え」を誤解なく伝えるための「やさしい日本語」を強く意識する必要に迫られている。それは、翻訳ソフトの支援が受け入れやすい「平明日本語」で表現することを意味する。

第Ⅰ部は、文化が言語を生み、言語が文化を育てる

第Ⅱ部は、英語文章の構造(オペレーションシステム)をインストールする

第Ⅲ部は、知財(IP)戦争とは、詰まるところ言語の戦いである

前にも述べたことがあるが、篠原氏とのご縁は、”日本から出願した米国特許明細書の読解に多くの技術者や知財部員が困っている”という話から始まった。篠原氏は、自分の目で確かめて”これは余りにも酷い“ということで、その酷い世界へ足を突っ込んだわけだ。知財翻訳の世界へ引きずり込んだ発明くんの責任は重い。

秦原氏は、2004年4月に「英文解体新書インストールマニュアル(300P)」を完成させた。2006年2月～2007年3月まで、SLE(School of Logical Expression)塾を開いた。並行して「世界に通用する特許仕様書」を作ろう」というタイトルで、無料セミナーを開催してきた。この活動の中、2007年3月、「英文特許仕様書(明細書)作成”改善”マニュアル」を発売(ウェブ出版社)した。この書籍で海外へ出願する特許仕様書(明細書)を、どのように作成すべきかについて、その基本を纏めることが出来たと思う。

その後も、更に一步踏み込んで、知的財産の専門家の手に渡す前の「発明提案書(発明仕様書)」をどのように作成すべきかを取り上げ、日本の知的財産を日本語文

章で論理的に、そして明快に表現するための基本的な技術文章マニュアルの作成に取り組んできた。しかし、知財業界での反応は極めて鈍かった。その理由は、海外へ出す特許明細書を含めて、あらゆる文書の品質に対する企業の無関心であったからだと思う。

【参考】: SLE 塾カリキュラムのポイント(3*3方式)を紹介

まず、文書の全体構造を理解すること。そして、文章は一つの建造物であるから「構造化・図面化」できることを利用する。つまり一つの文章は、3コのモジュール(modules) 1.Subject 2. Verb 3.Object で構成されている。そして記述種類、1.属性 2.状態 3.働き掛けを合わせると「3*3」となる。

ステップ:1

①英語文書(文章)仕様書を正確に読む。②どのように物事を記述しているか、を読む。③同じ物事を日本語で明確に記述する。④英語で同じことを明確に記述する。

ステップ:2

①英語でどのように記述されているか、3*3方式(篠原方式)で分割し直読する。
②同じ物事を日本語で明確に記述する。記述した文章を3*3方式でチェックする。

分割直読法を習得すると、どんな長文であっても正確に早く読み取れるようになる。TOEICや大学入試の長文問題の対策に役立つこと間違いない。



I 文化が言語を生み、言語が文化を育てる

01	日本人が英語を苦手とする、その理由	02	文化が言語を生み、言語が文化を育てる
03	日本人の「物・事」の観方や考え方	04	英語の特徴と日本語の特徴を比較する
05	多くの日本人が、英語を苦手としている理由は「言語処理手順」の違い		
06	英語の学び方（学習法）を改善すれば、英語の上達は早くなる		
07	英語には「文化英語」と「文明英語」がある	08	優美な日本語「和をもって尊しとなす」
09	言語を基盤にして「物・事・考え」を明確にし、表現して伝えるのが人間	10	英語を学ぶ人へ、これだけは伝えておきたい！

II 英語文章の構造（OS）をインストールする

01	なぜ、英語を学習する必要があるのか	02	英語の処理手順（OS）を組み込む
03	グローバル世界での戦いは英語である	04	「文明英語」に慣れることからスタート
05	英語学習で求められる論理力	06	日本人に効果的な英語学習のやり方
07	英語学習の基本は、英語文章の構造を理解すること		
08	表現の内容は、「属性・状態・働きかけ」	09	表現の順序は、モノを観る時の順序
10	英語文章を「3*3方式」で、切って、切って、切りまくる		
11	自分で表現する（文章を構築する）場合の基本ステップを考える		

III 知財（IP）戦争とは、詰まるところ言語の戦いである

01	知財戦争とは、言語の戦いでもある	02	世界へ「物・事・考え」を伝える文明日本語
03	「文明日本語」とは何か、	04	「特許明細書」とは何か、
05	特許の理念は世界共通である	06	世界で通用する戦える特許明細書が必要
07	外国へ出願する特許明細書の現状は	08	虚しい「日⇄日」翻訳から解放すべき
09	日本でも始めるべき「平明日本語運動」	10	翻訳ソフトの支援が受けられる日本語で書く
11	文書品質を守るためには「基準特許出願明細書」が必要	12	知財関係者へ、これだけは伝えておきたい！